



Thailand-Japan Student ICT Fair 2019

12月18日(水)～24日(火)の7日間、高校2年GSコースの課題研究2グループ7名が、SSH事業タイ国海外研修として、プリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール(PCSHS)ムクダハン校で行われたTJ-SIF(Thailand-Japan Student ICT Fair 2019)に参加しました。このフェアはタイ国より32校、日本より26校が参加し、盛大に行われました。その中でも、ムクダハン校の連携校である本校は特別な歓迎を受けました。

現地ではポスター発表とオーラル発表を2件行いました。

- ・Creating a “Completely Controlled Plant Factory” where Plants Grow Up-side Down
- ・Constructing Growth Environment Monitoring System

ワークショップやフィールドトリップではムクダハン校や他校の生徒とグループを組み、テーマに沿った議論を行うことができました。

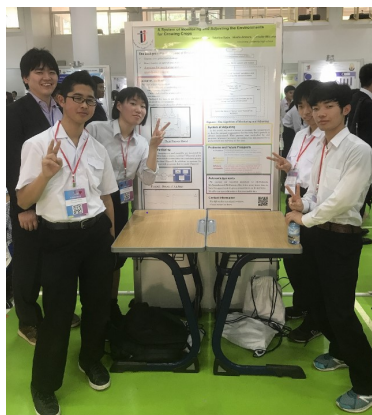
Teacher Show and Shareの時間には、向田識弘教諭が「Examination of Lesson Strategies Using ICT Based on SAMR Model」という題で、ICTを用いた理論に基づく授業方略の検討方法について発表しました。



発表の様子



ポスター発表の様子



ポスター発表の様子



オーラル発表の様子



オーラル発表の様子

フェアウェルパーティーでは、ムクダハン校と本校の友好をアピールする特別ショーを披露し、タイの民族衣装を着て伝統的な踊りを披露しました。



フェアウェルパーティーの様子

集合写真

TJ-SIFに参加して

- ・12月19日(木)はバンコクからムクダハンに移動でした。途中で寺院などを見に行き、仏教色の強い文化を体感しました。
- ・12月20日(金)はポスター発表があり、その後、歓迎夕食会に参加しました。英語力が試されました。ポスター発表では、英語の原稿を読み上げるだけでなく、質問の内容を理解して応じなければなりません。
- ・12月21日(土)は5つの部屋に分かれてオーラル発表がありました。大勢の人前で緊張しましたが、台本を準備していたので落ち着いて発表することができました。
- ・12月22日(日)はフィールドトリップとフェアウェルパーティーがありました。各地に調査に出かけて、植物の情報を収集し、整理して発表しました。パーティーでは、タイの伝統の楽器を見たりダンスを見て踊ることができました。
- ・12月23日(月)はタイのパートナーとお互いの研究や、タイと日本の共通点と相違点について議論しました。



広島大学附属高等学校

〒734-0005

広島市南区翠一丁目1番1号

TEL: (082) 251-0192

FAX: (082) 252-0725

英語合宿に参加して

留学生とディスカッションする時間には、最初、何をどのように進めてよいか戸惑いました。留学生の方から話題を提供してくれたので、聞くことから始めました。しばらく聞いていくうちに、疑問が出てきて、質問することに発展しました。この経験から、「よい話し手になるためには、よい聞き手になることが大切である」ことを学びました。また、スマートフォンで写真を見せてもらうことで、イメージがわかりました。ICTなどをうまく活用することで、ディスカッションがスムーズに行えます。これからも便利なツールは上手に活用しようと思いました。



留学生とディスカッションする様子



異文化理解グループワークの様子

FS講義 (英語)



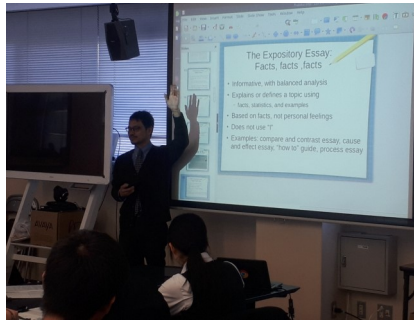
講義の様子

研究の方法には、質的な方法と量的な方法があり、従来はどちらか一方を採用しがちであったが、両者を複合的に扱うことで、大変にはなるが、より深く対象を分析できるということを教えていただきました。

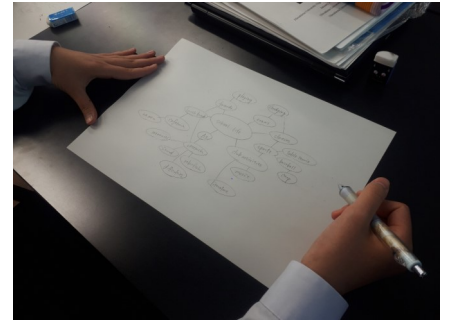
SSH英語合宿

1月31日(金)～2月1日(土)の2日間で、高校2年ASコースの生徒全員が学校設定科目「ASサイエンス・コミュニケーション」における「英語合宿」に参加しました。この合宿の開催は今回で8回目となります。

1月31日(金)は、本校にラング教育センターからEmeric Velasco 先生を講師に迎えて、アカデミック・ライティング講座を実施しました。その後、課題研究の内容をもとにして英語ポスターを作成し、発表練習を行いました。



講義の様子



ポスターを準備する様子

2月1日(土)は、広島大学東広島キャンパスの学士会館に広島大学から恒松直美先生を講師に迎えて、異文化コミュニケーション・ワークショップを実施しました。短期交換留学プログラム(HUSA)留学生(アメリカ・タイ・フィンランド出身)と研究生(中国出身)も参加してください、留学生との異文化間インタラクションに刺激を受けつつ、グローバル社会における大学や研究の発展について学びました。その後、前日に準備した課題研究の英語ポスターを利用して、プレゼンテーションを行い、ラング教育センターの講師、本校英語科の先生によるコメントをいただきました。前日に、「ポスターとオーラルの違いは何か」との問いが出されたため、聞き手にいかにして伝えるかを工夫して発表を行いました。私たちなりの答えが出せたように思います。

編集後記

1月31日(金)に高校1年の生徒全員が学校設定科目「総合科学」の特別講義を受けました。講師は広島大学の永井敦先生でした。「Understanding “Mixed Methods” in Educational Psychology」という題目で、教育心理学の内容とその研究の方法についてご講義いただきました。

今号では、英語でのポスター発表に関する内容を報告しました。プログラムに参加して、プレゼンテーションに関する技能を高めるためのよいヒントを与えていただきました。また発表を通して、表現に加えて、研究の中身を深めることの重要性を再確認しました。課題研究をさらに進めて、その成果を発表する際に生かします。

次号ではタイ訪日研修、SSHの日(2月)について報告する予定です。(担当: II年3組AS委員)